

ISO 45001のご提案

～今だからこそ、職場の安全をあらためて考えるISO 45001～

『ISO 45001』とは…

**安全で健康的な職場を提供するための
組織的な取り組みです**

※OHSMS : Occupational Health and Safety Management System

オキュペ ィショナル

ヘルス

セイフティ

マネジ メント

システム

職業上（労働）

健康状態（衛生）

安全

**ISOは、人材と組織（会社）を成長させ、
経営のステージアップ（成功）に導く取り組みです。**

1. 『リスク』はゼロではない

■危険源（機械、設備等）なしで作業は不可能
「危険源」がゼロにはならない

■暴露なし（無人化）で作業はできない
「暴露」がゼロにはならない

《参考情報》

- ① 1 : 29 : 300（ハインリッヒの法則）
1件の重大災害（死亡、重傷）が発生する背景に、
29件の軽傷事故（休業4日以上）の死傷
300件のヒヤリハットがある
- ② 人は過ちを犯すものである（ヒューマンエラー）
- ③ 事故災害は必ず起きるものである



2. 『ISO 45001』と事故災害の関係

■ 『ISO 45001』に関連する活動の有無による災害発生率

(厚労省調査結果)

- ・ OHSMSを導入・運用中 : 平均災害発生率 3.91
- ・ リスク評価実施
危険予知活動(KY活動) : 平均災害発生率 4.00
- ・ 安全衛生活動していない : 平均災害発生率 6.15

■ 『ISO 45001』導入後の労働災害やヒヤリハット体験の状況

(厚労省調査結果)

業種を問わず、『OHSMS』導入により大幅に労働災害やヒヤリハットが減少しています。

	事業所の割合	
	減少している	減少していない
建設業	77.50%	22.50%
製造業	88.10%	11.90%
運輸業	79.80%	20.20%

3. 『ISO 45001』 のメリット

■ メリット

業務役割分担の明確化

リスクを想定した経営管理体制の構築

社員の安全意識の向上
労働安全衛生水準の向上

潜在的リスクの軽減による
事故発生への減少

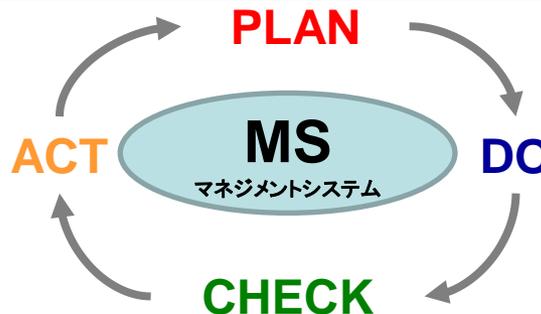
企業イメージの向上

文書・記録管理による
説明責任の実現

■ マネジメントシステムの取組み

- 会社の現状を把握する
- 役割、責任及び権限等の体制を整備する
- リスクや機会への対応、目標達成のための活動を計画する

- 監視・測定（点検）によって得られた情報をもとに現状・体制・活動計画の見直し、改善を行う



- 人、物、情報等の資源を管理する
- 教育・訓練の実施、意識向上によって人のレベルアップを行う
- ルールの明確化、活動の確実化のための文書・記録を管理する
- 日常業務において決めた活動計画を実践する

- 実践した活動を監視・測定（点検）する

4. 『ISO 45001』 取組みのポイント

■ リスク及び機会（課題）を特定する

外部の課題 内部の課題	利害関係者 ニーズ及び期待	リスク及び機会 (課題)	取組みの計画	OHSMSへの展開 有効性評価の方法
法規制の変更	(法遵守)	法規制の改正や新たな規制の導入が、企業の安全衛生管理に影響(リスク)	外部専門家との連携によりコンプライアンスプログラムを強化。	KPIを設定し、定期的にモニタリングする。
リソースの不足	(従業員)	人員不足や予算不足により安全衛生に対する必要な対策の実施ができない(リスク)	重要な安全対策には優先的に資源を投入し、無駄の削減をする。	実施に係るコストとその効果を分析し、投資対効果 (ROI) を評価する

■ 危険源の特定、リスクアセスメント及び活動計画

1. 危険源の抽出とリスクの特定

負傷や病気の原因となる設備、道具、作業環境を特定し、それに伴うリスクを洗い出します。

2. リスクアセスメントの実施（高いリスクを選定）

特定したリスクを分析・評価し、高いリスクを選定します。

3. リスクへの対策

選定したリスクを小さくするための対策を決定し、実践します。

4. 目標を設定

労働安全衛生の取組みの効果・効率の向上を目指し、目標を設定します。

5. 達成のための実施計画を策定、実行

設定した目標を達成するための具体的な活動計画を策定し、達成状況や進捗の管理をします。

5. 『ISO 45001』 成功に向けて

■ 従業員の積極的な参加

『OHSAS』は、業務・作業を実施する現場における労働災害への対策です。対策の必要性、実効性は、従業員の方々が一番よく理解されています。従業員の積極的な参画が『OHSMS』の成功の鍵です。

危険源の特定

リスクの特定

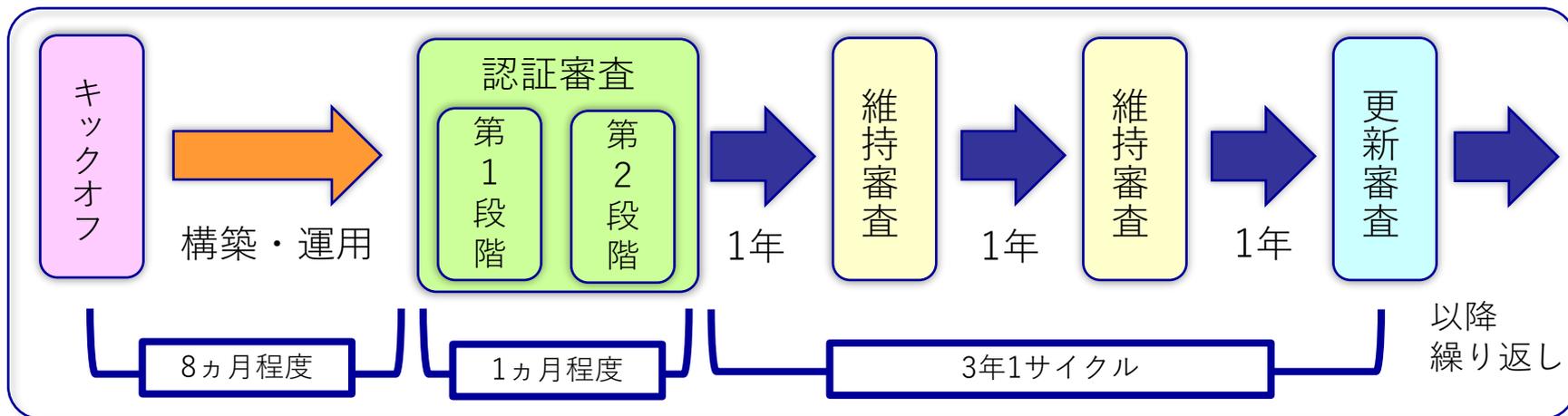
対策の実施

“従業員の意見”が『OHSMS』を構築し、実効性のある運用を支えます。

6. 認証取得までの流れと活動

	第1月	第2月	第3月	第4月	第5月	第6月	第7月	第8月	第9月	
取組み流れ	キック オフ	構築		運用					審査対応	
	<ul style="list-style-type: none"> ① 認証範囲の決定 ② 体制決定 ③ 既存文書の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ④ OHSMS文書作成 ⑤ 危険源の特定 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ リスクアセスメント ⑦ 審査機関の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ OHSMS社内展開 ⑨ OHSMS運用開始 			<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 内部監査の実施 ⑨ マネジメントレビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 審査受審 ⑪ 審査対応 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 審査受審 ⑬ 審査対応 	ISO45001認証取得
コンサルティング実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 認証範囲の特定 ② 業務・手順等の洗出し 	<ul style="list-style-type: none"> ③ OHSMS文書構築 		<ul style="list-style-type: none"> ④ OHSMS運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 教育研修 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 内部監査 ⑦ 審査準備 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 第1段階審査対応 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 第2段階審査対応 		

7. 審査



《認証審査》

ISO認証を取得するための審査です。構築したマネジメントシステムがISO規格の要求事項に適合していることを確認する『第1段階』と構築したマネジメントシステムと実態が適合していることを確認する『第2段階』で構成されます。（有効期間3年）

《維持審査》

ISO認証を維持するために1年または半年に1回、マネジメントシステムの運用状況を確認する審査です。一般的には1年に1回の維持審査を受けます。

《更新審査》

ISO認証を更新するための審査です。認証審査(第2段階)と同様の審査を行います。